

令和5年9月中間期 損保決算概況について

1. 保険引受の概況

(1) 正味収入保険料

正味収入保険料は、火災保険の減収などにより、前中間期(令和4年9月中間期)に比べ $\Delta 1.3\%$ ($\Delta 618$ 億円)減少して4兆6,469億円となりました。

(2) 正味支払保険金、損害率

正味支払保険金は、2022年3月の福島県沖地震の影響の低下および国内の自然災害の減少による火災保険(地震含む)の支払いの減少などにより、前中間期に比べ $\Delta 3.0\%$ ($\Delta 783$ 億円)減少して2兆5,693億円となりました。

損害率は、前中間期に比べ $\Delta 0.8$ ポイント低下して61.1%となりました。

(3) 事業費、事業費率、コンバインド・レシオ

保険引受に係る営業費及び一般管理費は、前中間期に比べ 0.5% (35億円)増加して6,582億円となりました。

諸手数料及び集金費は、前中間期に比べ $\Delta 3.5\%$ ($\Delta 302$ 億円)減少して8,285億円となりました。

これらを合計した事業費は前中間期に比べ $\Delta 1.8\%$ ($\Delta 267$ 億円)減少し、事業費率は前中間期に比べ $\Delta 0.1$ ポイント低下して32.0%となりました。

損害率と事業費率を合計したコンバインド・レシオは、前中間期に比べ $\Delta 0.9$ ポイント低下して93.1%となりました。

(4) 保険引受利益(△損失)

以上の増減益要因に、その他の保険引受収益および保険引受費用を加減算した保険引受利益(△損失)は、前中間期に比べ赤字幅が2,486億円縮小して $\Delta 446$ 億円となりました。

2. 資産運用の概況

資産運用収益は、有価証券売却益の増加(698億円)などにより、前中間期に比べ12.1%(618億円)増益の5,745億円となりました。

資産運用費用は、有価証券評価損の増加(111億円)などにより、前中間期に比べ45.8%(507億円)増加して1,612億円となりました。

資産運用収益から資産運用費用を差し引いた資産運用粗利益は、前中間期に比べ2.8%(112億円)増益の4,133億円となりました。

3. 経常利益・中間純利益

経常利益は、保険引受利益(△損失)の赤字幅縮小により、前中間期に比べ375.3%(2,600億円)増益の3,293億円となりました。

経常利益に特別損益や法人税等合計を加減算した中間純利益は、前中間期に比べ824.5%(2,298億円)増益の2,577億円となりました。

4. 総資産

総資産は、令和4年度末に比べ4.5%(1兆4,270億円)増加して33兆1,760億円となりました。

5. ソルベンシー・マージン比率

ソルベンシー・マージン比率は、協会加盟会社全社とも法律で求める水準である200%を超え、経営の健全性について問題ない水準となっています。

以上

注意:下線部分は2024年2月29日に修正しています。